

コラム

招聘研究員レポート

名前	所属	招聘期間
陳 祖英	北京師範大学 中国民間文学研究所	2017年 9月26日 ~ 2017年10月15日
マリアンナ・ザネッタ	フランス国立高等研究院 東アジア文明研究センター	2017年10月 1日 ~ 2017年10月19日
梁 珊珊	華東師範大学 中国非物質文化遺産保護研究中心	2017年10月11日 ~ 2017年10月31日
キリ・ヴェメテ	ブリティッシュコロンビア大学 アジア学科	2017年12月 5日 ~ 2017年12月22日
加瀬丹野ジュリアナ	サンパウロ大学 日本文化研究所	2018年 1月 9日 ~ 2018年 1月29日
田 哲熙	漢陽大学校 東アジア研究所 (韓国文学学科)	2018年 1月11日 ~ 2018年 1月31日
朱 子昊	浙江工商大学 東亜研究院	2018年 1月15日 ~ 2018年 1月29日

神奈川大学への研究派遣記

陳 祖英
(北京師範大学)



私は2017年9月26日から10月15日まで、神奈川大学非文字資料研究センターの支援を受けて、日本で20日間の研究派遣生活を経験しました。初めて日本に来た私にとって、いろいろな面において収穫がありました。特に執筆中の博士論文「20世紀中国民間伝説研究史」においては多くの方々から助言をいただきました。

日本に到着した翌日の27日に、私は予定通りに指導教員の佐野賢治先生と会い、研究派遣期間の具体的なスケジュールについて相談しました。先生は私の論文テーマを聞いた後、中国民間文学界の鐘敬文、張紫晨、烏丙安、陶立璠などの先行研究者たちの貢献を熱く語り、劉

鉄梁、万建中、施愛東などの中堅研究者たちの成果も話してくださいました。そして何彬教授と周星教授に連絡を取り、私の訪問スケジュールを手配してくださいました。また、これまでまとめてきた20世紀中国民間伝説研究史の内容を、佐野先

生のゼミで発表することが決まりました。

研究スケジュールが決まった後、チューターの程亮さんにたくさんのアドバイスや指導をしていただきました。私の論文テーマはぼう大であるため、その中の一部を選出して佐野先生のゼミで報告することになりました。程さんと相談した結果、テーマを「20世紀中国民間伝説研究小史」に設定しました。内容は中国各時代における伝説の概観と特徴を簡単にまとめたものです。程さんには、社会、民間文学及び伝説研究の年表を作成し、年表を用いて三者を比較すればその関係が一目瞭然となると助言していただきました。年表を準備する際、かなり手間がかかり、何日も費やしてようやく作成できました。

10月1日に、程さんに案内していただいて、首都大学東京の何彬教授を訪ねました。そこで私たちはランチを食べながら博士論文の構成を議論しました。何彬教授は研究方法と論文の書き方に関して具体的な指導をしてくださいました。例えば論文のタイトルについて、タイトルは一見して主旨がわかるように、副題をつけて自分の研究の範囲と主な論点を明示したほうが良いと助言してくださいました。また、論文の構成に対して、既存の論文の枠組みを、上下二編に分けて展開するように、とも助言してくださいました。上編は20世紀中国民間伝説研究の汎論とし、元の構成の前半3章を含めることに対して、下編は民間伝説研究理論と方法を中心とし、元の構成の後半3章をまとめることにしました。最後に先行研究の成果をいかに整理するかという問題に対して、先生はEXCELを使って分類して分析するように



神奈川大学の高くそびえ立つ時計は、私が道に迷った時の目印。「永遠」という名の彫刻と共に、私の記憶に留まる



この東京都内唯一の都立大学の素朴な校門を見て、日本人の控え目な伝統に思いを馳せる

と教えてくださいました。10月7日、程さんに同行していただいて愛知大学の周星教授を訪れました。この日、周星教授はずっと私たちと一緒にいてくださり、中国民俗学と民間文学研究発展の歩み、代表学者の研究貢献及び今後の中国民俗学の展望を討論しました。博学で謙虚な周先生との面談を通じて、これまでバラバラだった私の民俗学の知識が整理され、はたと合点がいった感じがしました。また、学者たちによる伝説の研究は長年にわたって主に本質主義の立場に立っていることがわかりました。

10月12日はサプライズの日です。午後1時に、程さんに誘われて口承資料研究の授業に出席しました。口承文芸研究の大先生が講義してくださると聞いていましたが、その先生がまさか常光徹教授とは思わなかったです。程さんに常光先生を紹介してもらった後、先生は私のためにわざわざ日本民間説話について話してくださいました。私は『日本民間文学概論』や関敬吾などの学者たちの論文からそのあらましを知っていましたが、常光徹先生の説明を通じて、昔話・伝説・世間話・神話の区別がはっきりとわかるようになりました。先生は私に中

国民間文学の分類を聞いて、「分類には絶対的な基準がなく、本国の民間文学の実際状況をもとに具体的に分析すべく、他国の分類方法は参考用のものである」と丁寧に教えてくださいました。

先生方のご指導と程さんのア

ドバイスのおかげで、私は20世紀中国民間伝説研究史の発展をより一層明確に整理することができて、各時期の特徴も明らかになり、結論にも少し自信を持てるようになりました。10月13日の第148回比較民俗研究会で、緊張気味の報告発表をした後、佐野先生は、20世紀中国民間伝説研究には文学性と政治性の特徴を持つとの高見を述べ、中国の伝説研究をしっかりと発展させるようにと励ましてくださいました。

今回、研究派遣の機会をくださった神奈川大学非文字資料研究センターに深く感謝します。心を尽くして指導してくださった先生方、熱心に通訳してくださった程亮さん、生活にも勉強にも行き届いた世話をしてくださった成田さんに、心を込めて感謝の意を表したいと思います。どうもありがとうございました。



愛知大学設立趣意書と自由受難鐘、自由・平和を求める願いと努力を表す

研究の発展につながった素晴らしい体験

マリアンナ・ザネッタ
(フランス国立高等研究院)



神奈川大学との出会いは大変な幸いであった。2017年春にフランスから短期学術交流プログラムに志願し、幸運にも2017年10月1日～19日の3週間にわたり招聘研究員として同大学の非文字資料研究センターに受け入れられた。受け入れ決定の直後に同センターの事務職員から連絡があり、到着前のあらゆる事務手続きについて説明を受けた。この点を強調するのは、こうした初期

のやり取りは細心の注意を要することが多く、適切な処理が重要だと思うからだ。というわけで職員による支援はとても役立ち、手続きを完了するには不可欠であった。

私の研究テーマは東北地方の女性シャーマンの文化人類学的研究であり、その特質上、スケジュールと研究計画の作成においても大きな支援を受けた。東北地方に出張し、博士論文後数年のブランクを経たフィールドワー